

いざ政権交代!?: 京・江戸・博多、そして巴里 : 32

南野, 森
九州大学大学院法学研究院 : 教授

<https://hdl.handle.net/2324/7397121>

出版情報 : 福音宣教. 78 (10), pp.2-3, 2024-11-01. Oriens Institute for Religious
バージョン :
権利関係 :





自民総裁選に立候補した9人（左）と立憲代表選に立候補した4人（右）

京・江戸・博多、そして巴里

南野 森●憲法学者

32 いざ政権交代!?

九月二十七日、自民党は新総裁に石破茂元防衛相を選出した。そして石破氏は、一〇月一日の臨時国会で第一〇二代内閣総理大臣に指名された。他方、立憲民主党では九月二十三日、新代表に野田佳彦元首相が選出された。きたる総選挙では与党を過半数割れに追い込み、政権交代を目指すという。

戦後の日本は、政権交代が極めて少ない特異な国である。一九五五年の自民党結党から70年になるが、その間、同党が野党であつたのは4年2ヶ月しかない（一九九三年八月成立の細川内閣から翌年六月退陣の羽田内閣までの11ヶ月と、二〇〇九年九月成立の鳩山内閣から一二年一二月退陣の野田内閣までの3年3ヶ月）。

一九九四年の「政治改革」で衆議院議員の選挙に導入された小選挙区制は、理念的には、二大政党制（二大ブロック制）を推進し政権交代を起きやすくするとされ、そういう効果を期待して導入されたとも言えるが、現実には、それから30年が経つてもいまだに二大ブロック化しているとはいえない。それどころか、第二次安倍政権以降の与野党の関係は「一強多弱」とまで言われている。

小選挙区制は、その選挙区で一人しか当選しない制度である。与党候補者と野党候補者が1人ずつ立候補している場合、有権者は、政権交代を望むなら、野党候補者へ投票することが合理的な選択となる。問題は、与党候補者が1人、そして野党候補者が複数立候補している場合である。このとき、政権交代を望む有権者にとっては、たとえ自分の支持政党でなくとも、その選挙区で相対的に勝算のある野党候補（上位2位までに入りそうな野党候補）に投票することが最も合理的と

なる。その候補者の政策や主張に全面的に賛成できなくても、政権交代を望むなら、やはりその候補者に投票すべきである。政権交代を望みながら、複数の野党候補に票を分散させる投票をしてしまうと、それは与党候補を利することになり、結果として政権交代は不可能となるからである。

このような「戦略的投票」を有権者に求めるのが小選挙区制なのである。しかしこれはなかなか難しいことで、実際には、多くの人は「与党よりマシな、その選挙区で最も勝算のある野党」ではなく、「その選挙区で最も勝算のある野党A党より好きな野党B党、C党」に投票したくなる。しかしこの場合、B党、C党に投じられた票は、最初から死票つまり無駄な票となってしまう（そして野党支持の分散の結果、A党は敗れることになり、A党に投じられた票もまた死票となる）。

二〇二一年の総選挙では、全国の小選挙区で投じられた票の48%、二六七三万票が死票となった。また、全国の小選挙区での自民党の得票率は48%に過ぎなかったが、衆議院の小選挙区議席のうち自民党の議席占有率は65%にもなった。実際の有権者の支持率を過大に議席に反映するのが小選挙区制なのである。他方、比例代表制は、有権者の支持率をより正確に議席に反映させる制度であり、こちらでは、有権者は素直に自分の好きな政党に一票を投じれば良い。

小選挙区比例代表並立制という現行の衆議院の選挙制度は、政権交代を望む有権者には小選挙区と比例区とで異なる投票理由を要求する、複雑で難易度の高い制度なのである。我々は使いこなせているだろうか。



みなみの・しげる●九州大学法学部教授。京都市生まれ。洛星中・高等学校、東京大学卒業後、同大学大学院、パリ第10大学大学院を経て、2002年九州大学助教授、14年教授。AKB48の内山奈月との共著で好評を博した『憲法主義』（PHP文庫）ほか著書多数。